

R 3 園・小・中連携会議 「学校運営協議会ワークショップ」の成果

参加者=会津児童園（2名）・大戸公民館（1名）・大戸小学校（3名）・大戸中学校（5名）

- 少人数をマイナスではなくプラスでとらえよう！
- 少人数の課題を強みにする発想の転換が必要。
- 小さい／少ないことは全てメリット、実は強みと考える。
- 一人一人が大切にされている。
- 個に応じた指導→学力向上へ！
- 児童生徒の発表の機会がたくさんある。

少人数を強みに

- 小中9年間を見通した教育課程を考える。行事を一緒に行えるような工夫をする。
- まず、小中の運営ビジョンのすり合わせ。→9年間のビジョン作成までもっていく。
- 小中それぞれ年間の学校行事が多い。コロナ禍ではあるが、一緒にできる行事を増やしては？

教育課程／ビジョンの共有

- チーム大戸。風通しの良い職場
- 園小中の職員で情報共有／絆をつくる
- 園小中の垣根を取り払った授業や事業展開。「協働」がキーワード。
- 園小中の職員の交流の場を設け、顔と名前を覚えるところから始めよう！
- 中学生が小学生に勉強を教えに行く／職場体験で小学校の先生を手伝うなど、大人だけでなく、児童生徒間の関わりを増やしては？
- 職員の仕事を内容を精選し、今必要なこと／そうじゃないことを分けて、児童生徒と直接接する時間を増やしたい。
- 園小中の連携を「楽しい場」にする！

教職員のチーム力

- 中学校の「生活ノート」に保護者がコメントし、学校の様子を知ってもらう。さらに学年だよりに掲載する。
- 特別支援に関する保護者の理解。

保護者を巻き込む

Q：大戸だけの魅力ある教育を実現するために、私たちはどうすればよいか？

- まず、大人が大戸町を好きになる→子どもたちも町をもっと好きになる。大人に向けたまちづくりのレクチャーが必要。
- （公民館も含め）学校や園を開放するなど、地域の方に利用してもらう。
- 町の特色や歴史を学ぶ企画を、地域住民と保護者で行う。（R2は竹細工を実施）
- 市の民間企業とのコラボで、魅力発信！
- SDGsの視点で竹林整備する。野生動物の被害減少や水がきれいに！→環境教育の充実をもっと！
- 大戸の「売り」を明確に打ち出す。「勝多桜、竹林（竹炭・筍栽培）、花壇づくり、特別支援やキャリア教育で面倒見のいい学校…」&その他と軽重をつける。
- 「温泉」は地域の強み！ 過疎化を防ぐ可能性が大！

魅力がたくさん！

まちづくりを視点に

- 学校を核とした地域づくりを地域の人が本気で考え、協力して行動に移す。
- 大戸地区の教育に関する情報を積極的に発信／公開し続け、地区に魅力をつける。（小中のHP、「すくすくコミスク」、公民館だより「大戸岳」…）
- 児童生徒数のわりに予算に恵まれている。卒業式の花など、小中間で備品を共有し、予算を有効活用しては？
- 「まちづくり協議会」の福祉／産業部会と連携し、柔軟に活動の幅を広げる。
- 若い保護者や地元に戻りそうなOB等、コーディネーター後継者を育成する。
- 「同窓会」の復活！ →勝多桜の下で記念写真など、大戸に戻る契機をつくる